

2. 事前指導について（事業1と事業3）

1) 事前指導

- 4月12日 ガイダンス フレンドシップ事業や野外活動の必要性や教育上の位置づけについての講義
- 4月19日 青森県青年の家伊賀義憲研修課長が来学して青森県の教育事情や野外教育の実際について特別講義
- 4月26日 宿泊学習参加者 把握受講者名簿の作成 宿泊者の班編成 役割分担 エゴグラム用紙の配布
- 5月10日 青森県立梵珠少年自然の家木村洋志研修課長が来学して、集団合宿の準備、心構え、合宿研修における役割分担の意義について特別講義
合わせて、参加者の確認 傷害保険金、宿泊費など諸経費の取りまとめ エゴグラムの回収
- 5月12日と13日 梵珠少年自然の家で1泊2日の集団宿泊研修
- 5月13日 事業1と事業3の参加者の確認
- 5月24日 感想文の締切り



2) 青森県立梵珠少年自然の家での宿泊学習

5月12・13日 参加者：学生（男7名、女36名） 教官3名

<目的>

体験的な学習の中から、社会的には規則や作法、個人的には自己抑制の必要性そして協調性、役割分担と責任・奉仕の尊さ、また人間相互に認め合う心情を発見させ、確かなものにさせる。

<生活班の編成と役割分担>

主体的に活動を展開するための要素のひとつに、生活班の編成がある。一人ひとりの力が出し切れる小集団と、さらには全員が何らかの役割を分担し、互いに協力し生活できる係活動も大切にする。

宿泊室は、12人用が11室、14人用が2室、指導者用が1室ある。学生が使用できる宿泊室は12室であった。

事前指導



みんなで食事

No.	係名	しごとの内容	人数
1	実行委員長	・ 班長会の議長	1
2	班長	・ 班員のとりまとめ ・ 班長会 ・ 活動プログラムの確認 ・ 人員確認	1 (各班)
3	生活係	・ シーツ・枕カバーの受領・配布・返納 ・ 清掃分担の連絡・点検	1 (")
4	食事係	・ 食事の時間の進行 ・ 食堂の清掃 ・ あとかたづけの指示	1 (")
6	活動係	・ 教材・用具の準備・整理 ・ プログラム活動の世話 ・ 壁新聞・広報・記録	1 (")
9	放送係	1 ~ 2 名	"

< 日課表 >

<p>1 日目 5月12日(土)</p> <p>13:00 大学集合</p> <p>15:00 青森県立梵珠少年自然の家に到着 はじめのつどい オリエンテーション(研修室)</p> <p>15:30 活動 親睦レクリエーション</p> <p>17:45 夕食</p> <p>19:00 活動 暗闇ビンゴ</p> <p>20:30 入浴 自主消灯・就寝</p>	<p>2 日目 5月13日(日)</p> <p>6:00 起床</p> <p>7:00 朝のつどい 清掃活動</p> <p>7:30 朝食</p> <p>9:00 活動 アドベンチャービンゴ</p> <p>12:00 昼食</p> <p>13:00 活動 創作活動 チャカポコけんだま</p> <p>15:00 自然の家出発</p>
---	--

< 活動内容の詳細 >

活動 レクリエーション自己紹介と相互理解を図るためのゲーム

活動 暗闇ビンゴ: 暗闇の中を目印を追ってビンゴゲームを楽しみながら、協力して移動するナイトウォーク。

活動 アドベンチャービンゴ: 遊具やビンゴゲームを楽しみながら、2時間の体力を要する山登りをした。協力と助け合いの精神を育てるように設計されている。

活動 工作(梵珠チャカポコけん玉): 真竹を使って剣玉を作り、手作り遊具で遊び楽しさを味わう。



アドベンチャービンゴ

< 学生の感想 >

梵珠山での貴重な体験で得たもの

00p1130 倉内 貞行

梵珠山での合宿で、人を信頼し、協力することの楽しさや、必要性を改めて感じた。梵珠山自然の家に着くまでは、男性が圧倒的に少ないこともあって、行きたいとは正直思わなかった。しかし、プログラムの一番最初の開会式を行い、それぞれ班ごとに活動し始めるようになって、少しずつ、今まで言葉を交わしたことがない人たちと、コミュニケーションをとれるようになって、全てを楽しめるようになった。レクリエーションの実演で、多くの人に触れたり、協力をしたりしていると、私は楽しむことに夢中になっていた。レクリエーションは、参加者のなかで一人でも楽しめなければ失敗だと言っていた真意はここにあるのではないかと感じた。その後、食事をとり、夜は暗闇ビンゴを実施した。暗闇では誰も不安になる。きっと一人なら、歩けないだろうと考えられる場所を、五・六人のグループだと乗り越えられる。後で聞いたが、この暗闇ビンゴでは多くの人が疲れたらしい。羽賀先生をはじめ、引率の教官方までも疲れたそうだ。これは貴重な体験だと思う。皆が同じ空間で、同じ体験をし、同じ疲労を経験した。今まで親近感を持ち得なかった人達をより親密に感じられるようになった。その後、清水先生とたくさん話をし、自分が現在感じている考えをぶつけてみた。夜遅くまで話をし、それぞれ異なった背景や思想を感じて、全員が仲間だと感じた。二日目は、ネイチャーゲームを基にしたアドベンチャービンゴを行ったが、前日の暗闇ビンゴより過酷だった。グループで男性が私一人で、男性と女性の道が分かれた時、淋しくて走って合流地点まで行った。どのアトラクションでも、なぜか私が一番最初にやらされたが、ある意味、私がひっぱって行こうと考え、使命感を持っていたことを後で振り返ると、気恥ずかしかった。二時間近く歩いて、やっと到着した時、達成感を感じた。グループ全員で喜んでいたことが、この二日間の集大成だったのではないかと考えている。最後に、チャカポコ剣玉をつくり、帰る時間が近づくと、まだ帰りたくない切実に思った。大学には行って、早くも二年が経ち、多くの友人を得たと自負していたし、自然は大事だという理論及びその他の専門知識は身に付けていたつもりだった。しかし、「百聞は一見にしかず」である。自然の中で、コミュニケーションをとり、協力した経験を清水先生は「成長」したのだとおっしゃった。私も、自然という、ごく身近だが、接することの少ない場所で、仲間との時間を共有することで、成長できたと感じている。私が教員になったら、生徒と可能な限り時間を共有したいと心から思う。最後に、時間の限界まで私の浅はかな教育論に、耳を傾け、自身の教育哲学の一片を与えてくれた清水先生に心から感謝をしています。

江

始め、合宿は何のためにやるのだろうと思っていた。羽賀先生は、「まだ子ども達と触れ合う段階にいない。そういうための合宿だ。」とおっしゃった。確かに、子ども達と触れ合うにあたって、私達はどんなことをすればいいのか、というふうに戸惑ってしまうに違いない。しかし、合宿することにどんな意味があるのかと思いつつ、私は梵珠へ向かった。梵珠では、たくさんの自然と触れ合い、レクリエーションをやったり、暗闇ビンゴゲームをやったり、けんだまを作ったりと、普段こんなことは絶対やらないだろうというものをいくつか体験してきた。そして、それらは私にいろんなことを考えさせてくれた。都会のうるささも何もないこんな所だからこそ、普段話をしたことの無い人と話をしたり、触れ合ったり、協力しあったり、いろんなことをすることができた。皆のいろんな一面に出会うこととなった。私達でさえこんなことから、子ども達もそうだろう。暗闇ビンゴでは協力しなければ行けない子がでてくる。普段なら恥ずかしがって人を助けるなどという事はできない子もいるだろう。しかし、暗闇ビンゴではそんなことは言っていられない。進まないでゴールできない。だから、協力して進んでいく。子ども達は、自然と触れ合うことで、「協力」ということの意味、協力することでやっとゴールするという、何とも言えないすがすがしさ、満足感を発見することだろう。これは、やはり、体験してみないとわからないことである。講義だけでは理解できるものではない、とそう感じた。そういう意味で、この合宿は是非来年からもやってほしいと思っている。それから、梵珠少年自然の家の成田先生のレクリエーションは、言葉使いといい、何か子ども達のやる気を起こさせるようなパワーがあると感じた。今まで意識せず生きてきたが、自分が先生になるという立場から、先生を見て話し方がうまい、気持ちがいいと感じた。レクも、何も道具を使わなくても遊べるものがたくさんあると感じ、子どもの頃に帰った気がする。いろんな事を体験したわけだが、自然は危険がいっぱいである。しかし、その自然を知り尽くし、危険なところを事前に把握しておけば、できないことはない。それが、先生の役目である。子ども達が、いろんな事を体験できる場を、我々がつぶしてはいけないと思った。自然だけではなく、授業、様々なことにこれは応用できると思う。